

編集後記

旭川医科大学一般教育紀要の最新号をお届け致します。ご覧いただき、本号に収録の各論文が、価値ある自由な意見交換の契機として、少しでも皆様のお役に立つことができれば誠に幸甚です。今回も幅広く一般教育以外の方々のご寄稿がございます。

さて、本学が1973年9月29日8講座・9学科でスタートして以降、〈一般教育〉はこの9学科の総称として今日まで用いられてきました。その後、「生命科学」、「数理情報」が加わり、独立していた2学科が「歴史・哲学」という合成名称をもつに至りましたが外観に大きな変化は見られません。本紀要は開学6年後の創刊、中断後復刊、今回で第29号となります。教員の顔ぶれも、教育環境・風土も当初とは様変わり致しました。各教員は時代の流れとともに、またことあるごとに、以前は客観化されていなかった医学教養教育への貢献度（資質）を問われ、たえず自らについての検証と改善が求められてきました。しかし、現状の形態がどうであれ、最高学府に学ぶ若き学生諸君に、人間形成期のための基本的で幅広い学識と、厳しさと同時に寛容な心にも満ちた学習環境を提供するのが、本来一般教育の目標そして義務であることは不変です。

本紀要は、各執筆者の専門分野に関する問題意識の、自由闊達な論述のための結晶空間です。よって、純粋な学術論文に限定されておりません。ここでは各人の個性の発露が尊重されます。西欧型の教育は、学習のあらゆる段階で個人独自の批判的・独創的見解の形成を促すように構築されています。そして、これが高等教育の現場ではさらに堅固に拡張されて、以後の発展に寄与するいくつもの基礎研究の萌芽となってきました。わが国においては、むしろ逆に、先行研究の成果に忠実に定位した認識のバージョンアップとその共有が強く求められ、個性は平準化され、したがって発想の転換は容易には起こりません。本紀要は一般教育の枠をはずすことでこの教訓を生かし、社会医学や臨床分野、自然科学教育分野、哲学も含めて様々な、斬新で挑戦的な着想の温床となることを目標としています。われわれは常に研究の端緒に立つ先駆者である、それでよろしいのではないのでしょうか。

以上が基本姿勢です。今後ともご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

こうやがにのわき あさ し ひ し
高野蟹野分の朝に慈悲ぞ識る (笠木峠にて) (T. T.)

旭川医科大学紀要 (一般教育) 第29号

発行兼編集者 旭川医科大学
一般教育紀要編集委員会
〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
印 刷 平成25年3月
発 行 平成25年3月

(株) 総 北 海